

施工説明書

♪♪ ダイケン オトユカベースN ♪♪

ダイケン「オトユカベースN」をご採用いただきましてありがとうございます。

本製品は防音性能を考慮した床下地材です。正しい施工をされない場合には製品本来の性能が発揮されない恐れがあります。

施工前に必ず「施工説明書」をお読みいただき、適正な施工をおこなってください。

■製品内容

名 称	品 番	寸 法	梱包入数	梱包重量	同梱品
オトユカベースN	GB0702	40×900×900mm	1枚入り	約19kg/梱	施工説明書

⚠ 注 意

【製品の保管】・水がかからず、湿気の少ない平滑な所に平積みしてください。

・直射日光を避けて暗所に保管してください。

【施工上の注意】・施工時に必要な工具として「電動丸ノコ」「カッター」「インパクトドライバー」「釘打機」、接着剤は「捨て張り工法用ボンド」を準備してください。

・防音性のある床下地材ですので、重量物を載せると仕上げ材が沈むことがあります。重量物を設置するときは局部的に荷重がかからないように式台などを用いて荷重を分散させてください。特にピアノなど重量物を後から置かれる場合は、広い面積で荷重を受け、一箇所に荷重が集中しないように分散させてください。特にピアノを置かれる場合には、別売の「ダイケン防振ベース」をおすすめします。

・際根太材、オトユカベースN、捨て張り合板は必ず壁との隙間（10mm程度）を空けて施工してください。

また、仕上げ材は必ず壁との隙間（3～5mm程度）をあけて施工してください。

壁に突きつけて施工すると、湿気により仕上げ材などが伸びた場合、床鳴りや仕上げ材端部のピックアップの原因となります。

・木質フロアや捨て張り材の留めつけに普通釘やフィニッシュネイルは絶対に使用しないでください。

床鳴りや木質フロアの浮き上がりの原因となります。

★捨て張り材の施工はステンレスビス（φ4.0、長さ32mm程度）を使用してください。長すぎるとスラブ面と接触して製品本来の性能が発揮されない恐れがあり、短すぎるとオトユカベースNに留めつけられず、剛性が落ちて同様に性能が得られない恐れがあります。

★木質フロアはスクリューネイル38mmやフロアステーブル38mm（肩幅4mm以上）をお使いいただき、接着剤を併用して施工してください。

・際根太部の根太材は現場にて手配してください（厚さ18mm程度、巾40mm程度を推奨します）。

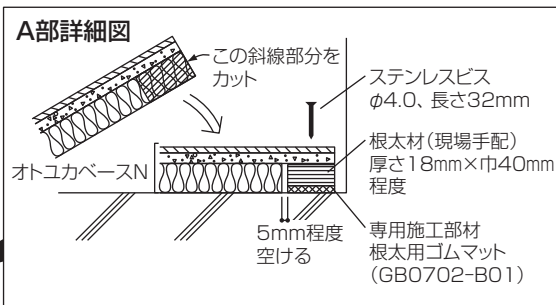
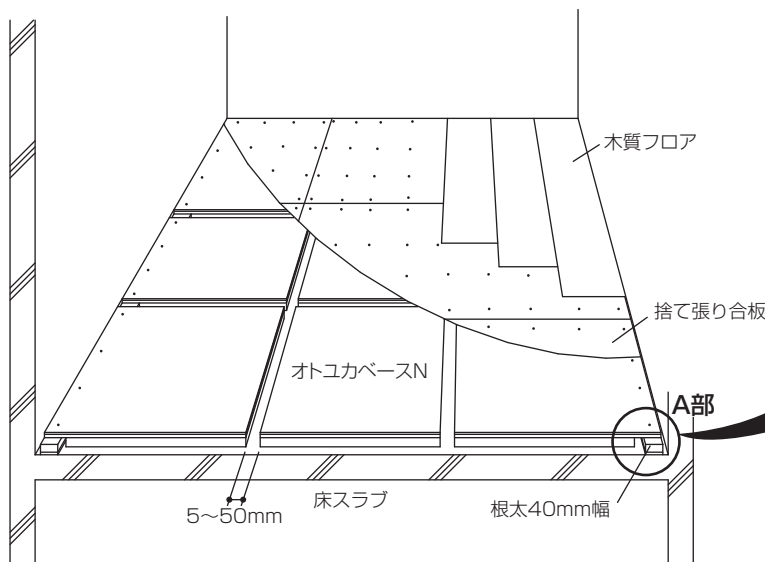
また、根太下のゴムマットは専用の施工部材「オトユカベースN専用施工部材 根太用ゴムマット（品番：GB0702-B01）」をご使用ください。

・クッションフロアや無垢大理石の仕上げの場合は、後述の施工方法に従って施工してください。

・床先行工法での施工をお考えの場合は、弊社サウンドセンターまでお問い合わせください。

【廃棄上の注意】・本製品を廃棄するときは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従い、「廃プラスチック類」と「木くず」の混載物として適正に処理してください。詳細は各自自治体にご確認ください。

施工仕上り図



施工手順

1. スラブ不陸の調整

- ・床スラブに凹凸がある場合は、ならしモルタルで一定のレベルを出してください。
- ・ならしモルタルをする際は施工前に十分に乾燥していることをお確かめください。

2. 際根太の施工

- ・根太は壁際四周や開口部のまわりに回してください。
- ・根太材は現場にて手配をしてください。（推奨根太材・・・厚さ18mm巾40mm程度）（前頁「施工仕上り図」参照）
- ・この根太下に別売「オトユカベースN専用施工部材 根太用ゴムマット 品番：GB0702-B01」（サイズ：厚6mm×40mm×40mm）を450mm以下のピッチで配置してください。
 - ※根太下の「オトユカベースN専用施工部材根太用ゴムマット」と根太はウレタン系接着剤（「捨て張り工法用ボンド」をおすすめします）で接着し、ゴムマット側からピンタッカー等で留めつけてください。（接着剤硬化までのゴムマット落下防止のため）
 - ※また、上記で作製した際根太材をRC床面にウレタン系接着剤（「捨て張り工法用ボンド」をおすすめします）にて接着してください。
 - ※別売「オトユカベースN専用施工部材 根太用ゴムマット」は6畳相当の部屋にオトユカベースNを標準施工する場合に約1梱（40個入）程度必要です。
 - ※RCスラブ面から際根太面までの高さは24mm程度（オトユカベースNのグラスウール部分より1～2mm程度低くなるよう）に調整してください。
 - ※際根太と壁面の間に10mm程度の隙間を設けてください。

3. オトユカベースNの敷きこみ

- ・「オトユカベースN」の割付を行い、RCスラブ床面に直に置敷きしてください。
 - ※「オトユカベースN」は5mm以上間隔を空けて割付てください。最大50mmまで間隔を空けることができますので、お部屋の広さによって間隔を変えることで施工の簡略化になります。
- ・際根太にかかる部分は際根太の巾より大きめの45mm程度裏面のグラスウールをカッターで切り取ってください。（前頁「施工仕上り図」参照）
 - ※際根太同様、「オトユカベースN」と壁面の間に10mm程度の隙間を設けてください。
 - ※際部は際根太に対してステンレスビスφ4.0、長さ32mmを用いて300mm以内のピッチで留めつけてください。

4. 捨て張り合板の施工

- ・仕上げ材に木質フロアを用いる場合は、「オトユカベースN」の目地をまたぐ様に、合板（厚12mm）を敷きこみ、ステンレスビスφ4.0、長さ32mm程度を用いて留めつけてください。
 - ※ビスのピッチは300mm以内にしてください。
 - ※捨て張り合板と壁面の間に10mm程度の隙間を設けてください。
- ・仕上げ材にクッションフロアを用いる場合は、合板（厚12mm）の上にさらに合板（厚9mm）を上張りしてください。
 - ※9mm厚合板と壁面の間は5mm程度隙間を設けてください。
 - ※ステンレスビスφ4.0、長さ28mm程度を300mm以内のピッチで留めつけてください。
 - ※1層目と2層目の合板の目地は重ならないように割付してください。
- ・仕上げ材に無垢大理石を用いる場合は、合板（厚12mm）の上にさらに合板（厚12mm）を上張りしてください。
 - ※12mm厚合板と壁面の間は10mm程度隙間を設けてください。
 - ※ステンレスビスφ4.0、長さ28mm程度を300mm以内のピッチで留めつけてください。
 - ※1層目と2層目の合板の目地は重ならないように割付してください。

5. 表面仕上げ材の施工

- ・仕上げ材については各々、材料の標準施工に従ってください。
 - ※仕上げ材と壁面の間に3～5mm程度の隙間を設けてください。
 - ※薄物の巾木をお使いの場合、仕上げ材と壁面の間の隙間が巾木に隠れる程度に隙間の大きさを調整してください。
 - ※巾木は表面仕上げ材から2mm浮かした状態で施工してください。

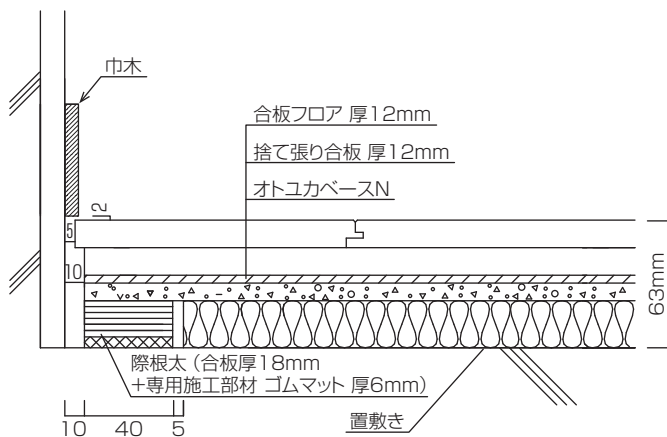
	注意	仕上げ材に無垢大理石を用いる場合は、下記の点に注意してください。 ただし、使用状況により無垢大理石にヒビや割れが発生するおそれがあります。
・無垢大理石のサイズは400mm×400mm以下で、厚み13mm以上のものをお使いください。 ・無垢大理石の石種はビアンコ カラーラと同等以上の強度のものを推奨します。くわしくは石材販売会社にお問い合わせください。 ・無垢大理石を施工する際、接着剤は建築石材用のエポキシ樹脂系接着剤をお使いください。 （ボンド商事㈱BD石貼りエースまたは同等品をお使いください。）		

	注意	床先行工法での施工をお考えの場合は、弊社サウンドセンターまで お問い合わせください。
---	-----------	---

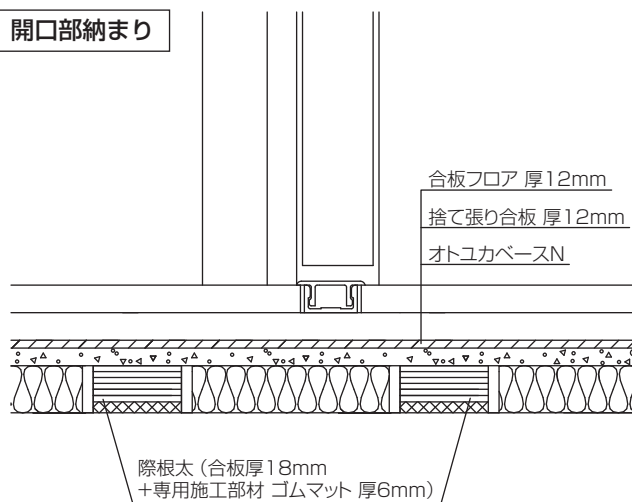
各部納まり図

①木質フロア（合板フロア 厚12mm）仕上げの場合

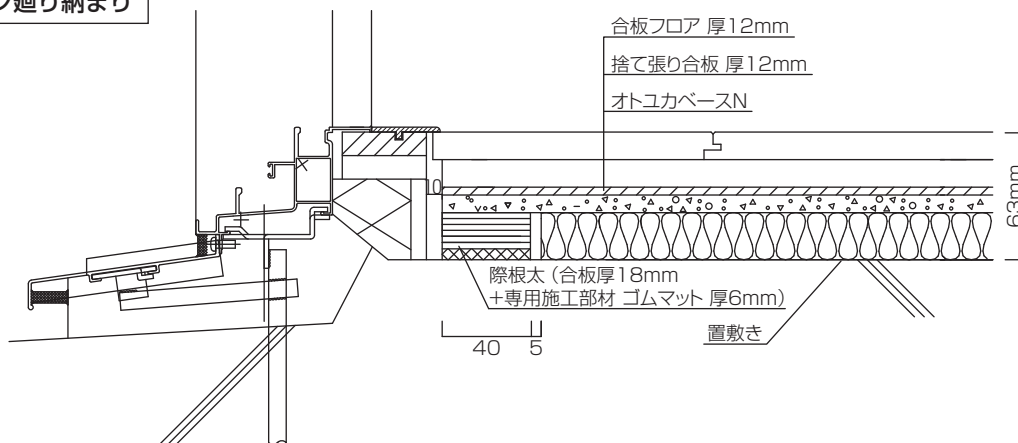
壁際納まり



開口部納まり

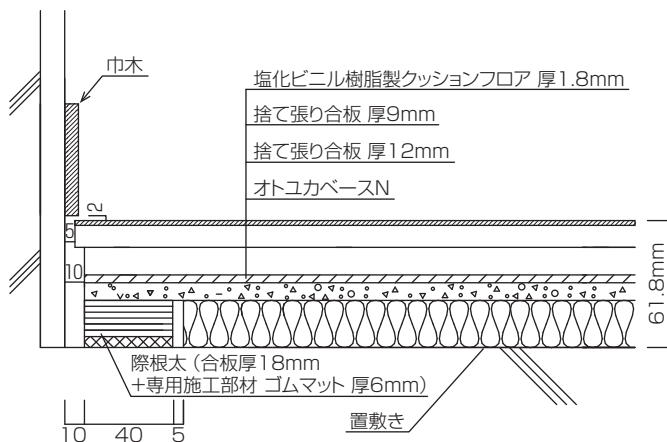


サッシ廻り納まり



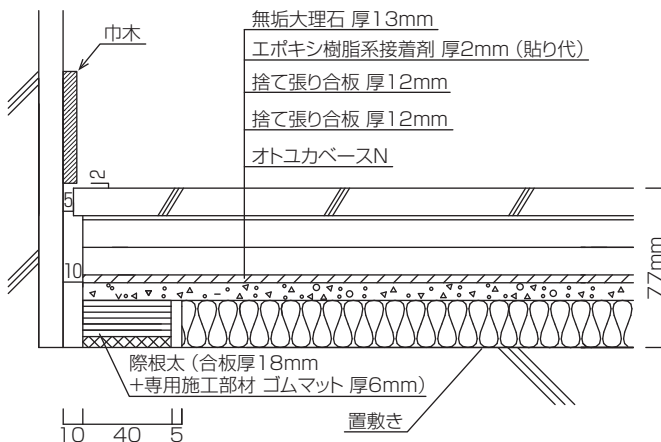
②クッションフロア仕上げの場合

壁際納まり



③無垢大理石仕上げの場合

壁際納まり



大建工業株式会社

DAIKEN のホームページアドレス
<http://www.daiken.jp/>

お問い合わせ

サウンドセンター

東京 TEL(03)6271-7785 大阪 TEL(06)6205-7245

受付時間：平日10:00～17:00（土・日・祝日・年末年始・お盆はお休みとなります。）

ダイケン オトユカベースN

F☆☆☆☆

(住宅部品表示ガイドラインによる)

この度はダイケン オトユカベースNをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本製品のホルムアルデヒド発散に関する性能担保は下の図表のようになっております。建築確認の際に本資料をご利用ください。

● 製品の構成とホルムアルデヒド発散区分



構成部位		表面材料	発散区分	備考
①	表面材	無機物配合アスファルトマット	告示対象外	
②	接着剤部分	エポキシ系接着剤	F☆☆☆☆	JAIA 004033
③	中間層部分	パーティクルボード	F☆☆☆☆	JIS A 5908
④	裏面部分	グラスウール	F☆☆☆☆	JIS A 9504

◎ 製品に関する情報・お問い合わせ

最寄の弊社営業所にお問合せいただくか、弊社ホームページ（<http://www.daiken.jp/>）をご利用下さい。